

生涯学習推進計画策定委員からの意見に対する市の回答（案）

No	ページ	項目	意見内容	市の考え・対応等
1	1	計画策定の趣旨	2008年（平成30年）→2018年	修正します。
2	2	計画の対象	今、橋本市の学校教育では、地域・家庭とともに子どもたちを育てようと、共育コミュニティとコミュニティスクールを両輪で推進しています。また、子育てサークル「よもやま」をはじめとする公民館の就学前の子育て世代向けの活動は生涯学習から外すことは出来ません。そのため、就学前のこどもを対象とした教育・保育を対象から外すという表現は適さないと思います。	「計画の対象としない」と表記している意図は、本計画には他の個別計画に記載している具体的な取組は基本的には記載しないということです。 対象から外すという表現は、委員ご指摘のとおり修正の余地があると考えますので、”それぞれの計画で取り組みを進めています。”等適当な表現を検討いたします。
3	5	（3）審議機関 市民参画	策定委員に公募委員3名を入れていることも追加を希望	（3）審議機関における説明文を ”市民や有識者等から組織された「橋本市生涯学習推進計画作成委員会」において、本計画についての意見交換及び審議を行いました。”旨の表記に改めます。
4	7	「超スマート社会（Society5.0）」の実現に向けた取組の推進	「ICT機器などを利用できる人とできない人の格差（デジタル・ディバイド）の解消」「格差や分断が生まれないように配慮していくことが求められます」とありますが、可能なのでしょうか？育った時代背景が全く違うので、格差解消というより、格差にあった対応、例えば、広報がLINEと紙ベースの両方であったりすることの方が現実的だと思います。現状に即した対応かなと思います。	格差にあった対応が格差の解消につながると考えており、”紙ベースでの情報提供も併用することで格差や分断が生まれないように”等適当な表現を検討いたします。
5	40、41		「生涯学習推進体制の充実」は今後10年進めていくうえで重要な体制であると考え、一見して目に入る図に入れておくべきと考えます。P40,41双方の図に明記すべきと考えます。	P73 第5章 計画の推進 で推進体制について言及できないか検討します。
6	42～	すべての項目で、「現状と課題」のみの記述です。	具体的な施策の内容を、より分かりやすく、明記すべきだと思います。（たとえば、第1次の計画の四角い枠組みように）	ご指摘のとおり今後の取組について分かるような記載がありませんので、箇条書き等で記載できないか検討します。
7	43	「学び直し・生きがい再発見」の矢印の位置	成人期から右でよいのでは。	委員の皆さまにお伺いし、同意が得られれば修正します。
8	43	各ライフステージの表記・定義	各区分の年齢を明記することと共に、区分名が揃っていないので統一を。 幼少年期（0～12歳）・青年期（12～20歳）・成人期（子育て期20～60歳）・シニア期（60歳～）を提案。	文言を統一するとともに、具体的な期間を設定するかも合わせて考えます。 青年期・シニア期を何歳から（まで）とするのか委員のご意見を聞きたいと考えます。
9	44	幼少年期・青年期の現状と課題がずれている	幼少年期の項目には、第1次生涯学習推進計画中の間見直しのP10子どもの社会性の育成の部分があてはまり、その中のP11青年リーダーの育成が、本計画素案のP45の2）青年期に当てはめて考えるとよいのではないのでしょうか。また、青年期に関してはそれだけでは不足なので、以下のことを付け加えるのはどうでしょうか。 ○本市で学校の放課後や長期休業、また、授業支援に地域の人が入る仕組みが出来て、およそ10年前後（地域による）が過ぎました。当時小学生だった子が、高校生や大学生になり、母校でボランティアをしたいと考えようようになってきている。「お世話になったから、自分がやってもらったことを逆の立場でやりたい、役に立ちたい」と考える学生が共育コミュニティの活動に参加するようになってきた。そんな学生の思いをより活かせる仕組みを「共育コミュニティ」の活動とともにもっと広く活躍の場を作り、知らせる仕組みを構築すべきと考えます。 ○主体的な学びをし、主体的に考え行動できる実践の場があるこのまちは若者たちにとっての「ふるさと」に他なりません。ふるさと教育の項目は橋本市教育大綱の基本方針の一つ目の重点目標にも掲げられています。ぜひ、この項目を入れたいと考えます。	”ライフステージに応じた学びの支援・充実”の項目については今回から新たに設定した項目で、事務局としてはもう少し整理が必要だと考えています。委員からのご意見も踏まえ、整理したいと考えます。
10	46	成人期（子育て期）	この項目に、見直し版P.7家庭教育支援の充実の項目を発展させて入れるべきだと思います。（詳細は省きます）	家庭教育支援の取組は、市の子ども・子育て支援事業計画に掲載しております。
11	47	シニア期1）高齢者の生きがい…	現状の課題の次に、下記の施策を入れる 公民館のサークルや社会教育関係団体は、公民館や市民活動サポートセンターなどの支援を受けて熱心に活動しており、数の多さと活動実績は橋本市の特色といえる。人数の減少していく団体を支えるとともに、新たなサークルや団体を作る支援も必要と考える。	担当課に再度ヒアリングを行い、文言の修正も含め検討します。 市として支援が必要なのか、また具体的に考えている、または実施している取組はあるのか など

No	ページ	項目	意見内容	市の考え・対応等
12	48	「豊かな心と多様な学びの推進」の項目に、スポーツ系の内容のみ	人権教育の項目は全ての世代に関わる事なので、こちらに入れることを提案します。 読書活動の推進も教育大綱に掲げられています。豊かの心を育む大事な施策だと考えます。	全てのライフステージに関わる項目をこちらに述べていきたいと考えています。
13	49	(3)障がいのある人のスポーツ活動支援	3行目「社会資源の有効活用」とありますが、この社会資源は人を含みますか？ もしも人を含むなら、次の「わつくり」の中では「地域の宝（人材）」と表現しています。そちらに合わせていただく方が、良いと考えます。	”社会資源”は人も含みます。 ”社会資源”の中に人が含まれることがわかる表現にします。
14	53	(1)地域の宝（人材）の発掘・活用	現状と課題3行目～6行目 文章の趣旨、意味が不明	前後の表現も含め、修正を検討します。
15	53	(2)人や地域をつなぐ人材（コーディネーター）の発掘・養成	2行目「今後はコーディネーターの後継者の養成及び育成や担い手の確保が必要になります」の部分を5行目の後に移動させ、さらに重複している箇所をどちらかに集約するのが良いと思います。	前後の表現も含め、修正を検討します。
16	54	(1)人材を活かす体制づくり	2段落目と3段落目の間に、以下の文章を挿入 各公民館におけるブロック活動は主体的な住民の自治活動のひとつであり、それを支援している公民館の存在は大きい。また、自主的に生れてきた若者の集まりなどにも目を向け、寄り添いながら支援していくことの積み重ねが住民自治を進めるうえで重要になり、公民館を始めとする行政の役割と考える。支援の難しさも、入れた表現をお願いします。	担当課に再度ヒアリングを行い、挿入することも含め、表記を検討します。
17	55	(4)園・学校・地域…の1行目	子どもたちの土曜日の学習活動とはなにをさしていますか？	例えば、高野口寺子屋塾等になります。
18	55～	2 地域での学び学習機会の充実	(1)地域課題を…、(2)地域行事…等、何か所か、前回とほぼ同じ記載のところが有ります。10年（5年）で変わっていないのでしょうか？	担当課に再度ヒアリングを行い、文言の修正も含め検討します。
19	58	1 行目～	公民館報もHPからの情報発信されていることを入れるべきかと思います。	前後の表現も含め、修正を検討します。
20	61	3）職員配置の検討と専門職員としてのスキルアップ	2行目 高齢化の進行とともに公民館利用も拡大しており・・・とあるが、利用の拡大しているのか？数字で知りたい。 2段落目 県の実施する研修会などに参加することでスキルアップ… とあるが、県実施の研修会に多くの職員が参加できているのか？また、職員全体のスキルアップのための研修を市として実施するべきではないか。	1点目の質問 公民館の利用者については、追加資料1のとおりです。 ”高齢化の進行とともに”を削除し、”コロナ禍終息後”を追記する等、文章の書きぶりについては見直ししたいと考えています。 2点目の質問 公民館主事は基本的に社会教育主事研修等県主催の研修会に参加するようにしている。 市主催としては人権教育等所要の研修を開催しているが、社会教育職員としての研修実施については、今後担当課と相談します。
21	66	(4)資料館等最後の行	出土品の保管にあたっています。とありますが、保管だけでなく、後述にもあるように「調査研究や展示」などを付け加えるべきかと。	ご指摘のとおり、「出土品等の調査研究、展示や保管をしています。」等に変更します。
22			全体にカタカナ表記が気になります。市民の皆さんに向けての文章だと思うのですが、あえて使うのなら注釈が必要だと思います。 シビックプライド、Society5.0、IoT、ロボテックス、ウェルビーイング、教育デジタルトランスフォーメーションなど、これらの言葉、一般の市民が使っているのですかね。特にシビックプライドって、どのような方が使っているのでしょうか？	難しい用語等については、注釈又はP75の資料編”1.用語集”に記載していきます。 ”シビックプライド”の用語は本市の長期総合計画の施策項目にも設定しており、本市シティプロモーション課をはじめとする各部署において推進しているところ です。 比較的最近広まった言葉であり、主に移住定住施策などで使用されています。
23			「職員アンケート調査」で、「市民調査」と比較していますが、その意味は何でしょうか？	職員と市民の意識の乖離を比較するためにアンケートを行いました。